

# 花や緑で 脳を活性化!?

## 「花活シンポジウム」開催レポート

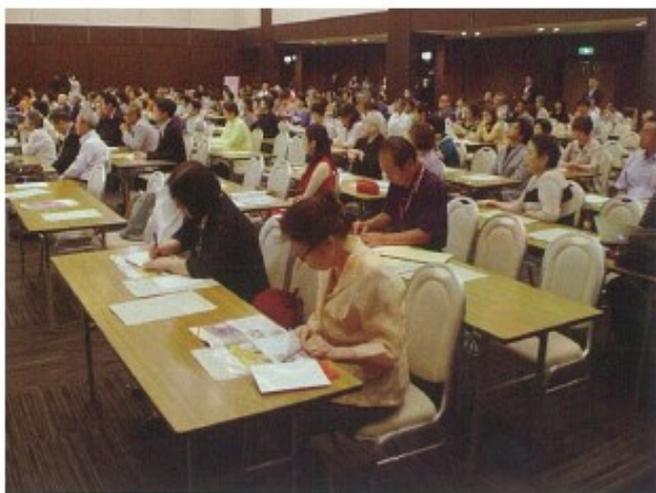
### 広島発!花と福祉の連携事業「花活」がスタート!

「花活」とは、「花を暮らしに活かす」を略した言葉。

イライラ抑制、ストレス軽減、疲労回復、さらには脳の活性化にまでつながると言う花や緑の活用についてのシンポジウムが開催されました。

これからの医療福祉の現場でどのように花や緑が活かされるのか、シンポジウムをレポートしてきました!





シンポジウム開演前から、たくさんの参加者が会場内も賑わいました。

「花活」とは、「花を暮らしに活かす」を略した言葉。農林水産省の国産花きイノベーション補助事業を受けて、広島県と広島の花き業界によって今年4月に設立された「広島花きイノベーション事業推進委員会」によって生み出されました。

今回のシンポジウムは、6月27日、メルバルク広島にて開催され、イライラ抑制、ストレス軽減、疲労回復につながると言われる「花や緑の効果・効用」や、空間に配慮し作成するフラワーアレンジメントによる「脳の活性化」について、専門家を招いての講演、パネルディスカッションが行われました。

定員200名の公募を大幅に上回る参加があったそうで、みなさんの関心の高さが感じられました。



望月氏の特別講演では、フラワーアレンジメントを用いたリハビリが記憶力や空間認知力などに改善をもたらすというデータなどをスライドとともに分かりやすく講演されました。

第一部では、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 花き研究所の望月寛子氏による特別講演。「花が人に与える効果とその利用」をテーマに、フラワーアレンジメントが脳障害者のリハビリや認知機能に改善の効果があるというご自身の研究成果を講演され、脳の機能訓練を目的として開発された「フラワーアレンジメント法」が実演されました。

そもそもフラワーアレンジメント自体、専門的で難しいというイメージを持っている人が多いのですが、望月氏の考案された「フラワーアレンジメント法」では、

- ①容易で失敗がないこと
- ②手順が決められていること
- ③誰でも同様に仕上げられること

この3点がポイントになっているそうです。

続いて第二部では、「花活」をテーマにしたパネルディスカッションが行われました。今回のイノベーション事業「花活」では、福祉に花を生かしていこうというのがひとつのコンセプト。

パネラーには、医療・福祉の現場から園芸福祉の専門家や現場の関係者、そして花き業界からも研究者や現場関係者の方が招かれ、それぞれの目線から、「花活」に関する実情が語られました。

園芸療法や園芸福祉が話題になってはいるものの、実はこれまで花き業界と福祉・医療関係者の間には、あまり接点がなかったのだそうです。というのも、今までは福祉や教育

などに花を取り入れていきたいと思っても担当の行政により管轄部署が分かれていたため、なかなか思うように実現することが難しかったこともあるようです。しかし、このたび成立した「花き振興に関する法律」により、これから業界の垣根を越えて連携していくことも可能になるといわれています。

このイノベーション事業、これから本格的に福祉施設を中心に、望月氏の考案された「フラワーアレンジメント法」をもとにした講習会などが実施されるそうです。

医療福祉だけでなく、日常の暮らしの中に「花活」が根付くよう私たちフルーブルも応援してまいります！



第一部終了後、ロビーでは望月氏の「フラワーアレンジメント法」体験が大人気。3つの花材を決まった長さにカットし、吸水性スポンジに付けられたマーク(○・△・□)へそれぞれ差し込むだけ。簡単で達成感・満足度も高いため、園芸福祉の世界でも注目されています。



園芸療法や園芸福祉が話題になってはいるものの、実はこれまで花き業界と福祉・医療関係者の間には、あまり接点がなかったのだそうです。

知るとなにか楽しそう！

障害者

NPO法人 日本園芸福祉普及協会さん取材しました。

高齢者

植物

青少年

健全者



# 園芸福祉活動に密着

みなさんは「趣味は何ですか」と聞かれると、何を思い浮かべますか？読者の皆様は花や緑がお好きな方だと思いますので、生け花やガーデニング、園芸等をお答えになる方が多いと思います。

趣味にも色々ありますが、自分自身が楽しく感じる条件がいくつかあります。その「楽しい」を紐解くと、趣味を通じて語り合える仲間がいたり、ものづくりであれば失敗や成功を通じてものが出来ていく過程が面白いのではないのでしょうか？

けれど、現代社会において核家族化や一人暮らしのお年寄りが増えるとともに、仲間づくりの場（コミュニティ）の減少や、ものづくりから学び得る経験等も希薄になっているように感じます。こういった背景から少しずつ趣味を持つ人も減っているのも事実です。

そこで、お年寄りから子ども、また障がい者から健全者までが園芸を通じて、仲間（コミュニティ）を作り、ものづくり（栽培）を楽しむという活動を行っている「園芸福祉活動」取材しました。

## 園芸福祉活動ってなに？

園芸福祉活動とは園芸福祉士が中心となり、地域の様々な場所で植物の種子・発芽・成長・開花・結実・収穫というプロセスの中にお年寄りから子ども、また障がい者から健全者が参加し、栽培する楽しみや喜びを共有する活動なのです。

## 園芸福祉士の役割は？

園芸福祉士は、園芸福祉活動を実践し、地域に根付かせ、大きな輪に育てていくための人材として日本園芸福祉普及協会が認定している資格です。園芸福祉士には、初級園芸福祉士と園芸福祉

士があり、現在全国で約2,300名の初級園芸福祉士と、約230名の園芸福祉士が活躍しています。

初級園芸福祉士は園芸福祉に関する幅広い理解と知識、技能を持ち園芸福祉活動を地域で実践していく役割を担っています。園芸福祉士は、園芸福祉活動を実践することはもとより、園芸福祉活動の地域への普及や啓発、地域のリーダー、コーディネーターとしての役割を担い活動しています。

つまり、栽培を通じて新しい仲間とコミュニティを築き、楽しめるといふこと。これらもとても楽しそうです。

## 全国で展開する活動

園芸福祉活動は地域に合わせた様々な活動を行っています。



視覚障がい者も楽しめる花壇



地域ボランティアの皆さんと



地域の世代間交流のひとつに

代替治療の分野から環境保全や地域・街づくり、さらに、情操教育や生涯学習、高齢者や障がい者福祉まで、幅広い分野で園芸福祉活動が展開されており、参加者は勿論、園芸福祉士自身も大きな経験となり喜びになるそうです。

# 園芸福祉活動現場に お伺いしました



株式会社しらかば 有料老人ホーム ヴィラみずほさんにお伺いしました



新しいところは助け合い、  
こうやって仲間づくりができるんですね!

植物と触れ合う楽しさを満喫!!

今回伺ったのは、園芸福祉活動を10年間も続けて行われている「有料老人ホームヴィラみずほ」さん。取材を行う中で一番に驚かせたのは、参加された皆さんが花に触れることを楽しみ、夢中になって時間を過ごされていることでした。施設の方にお話を聞くと、スタート当初は足腰の



順番通りに花を挿して



ポット苗をセットすれば完成!



イレカエールとは

内蔵された4つのカップホルダーにポットの苗を入れるだけで、簡単に寄せ植えや花飾りができる優れものなんです。

弱い方や車椅子の方などの花壇での作業が難しかったり、ハサミの使用や植物のトゲの対処、または細かな作業に対する難しさと、無理や危険が伴う問題など、たくさんの方の試練を乗り越えて来たのだとか。けれど、できないと諦めず、やる。そして楽しんで時間を過ごそうと、園芸福祉社の方と一緒に頑張って行脚を繰り返して来たのだそう。なんだか頼もしいですね。

今回の取材時に使用されていたのは、フルーブルでも以前ご紹介したイレカエール。このイレカエールは、植物と手軽に触れ合え、自分で作ったという達成感や満足感も高く、しかもその後の手入れまで楽しめるという二石三鳥の代物と、福祉の観点からも高評価。今後始まる新たな取り組みの「キープアイテム」としてもイレカエールが利用されるのだそうです。

有料老人ホーム ヴィラみずほ

〒738-0053 広島県廿日市市岡品4丁目51番2号  
URL <http://www.villa-mizuho.jp> TEL.0829-36-1660

園芸福祉活動に参加したい方、園芸福祉士を目指したい方はこちらまで。

**NPO法人 日本園芸福祉普及協会 事務局**  
〒162-0063 東京都新宿区市谷薬王寺町59-204  
TEL.03-3266-0666 FAX.03-3266-0687  
E-mail [kyo.kai@engeifukusi.com](mailto:kyo.kai@engeifukusi.com) URL <http://www.engeifukusi.com>

どの花を使おうか、どの色にしようか。どの苗をどこへ配置しようか。単純なことだけれど、頭を悩ませながら取り組む皆さんを見て、園芸福祉の素晴らしさを感じました。

植物と触れ合うことで仲間ができ、心も体も元気になれる。まさに「ひとりではなく、みんな」。皆さん、輝く素敵な笑顔、本当にありがとうございます。

これからは是非花や緑を楽しんでください。



広島花きイノベーション事業

# 花と福祉の連携事業 「花活」現場レポート



2014年4月に活動をスタートした広島花きイノベーション事業推進委員会。

6月に開催された「花活シンポジウム」を皮切りに、9月から広島県内全20か所での講習会が始まりました。

「レストランサービス向日葵（広島市中区）」での講習会の模様をお伝えします。



脳を活性化するとされるフラワーアレンジメント法に沿って花をカットする参加者。その眼差しは真剣そのもの。



仕上がったアレンジメントとポットの苗をイレカエールにセット。ひとつひとつの作業を楽しみながら進めています。

「花を暮らしに活かす」略して「花活」。農林水産省の国産花きイノベーション補助事業を受けて、今年4月に設立された「広島花きイノベーション事業推進委員会」が考案した広島発の新語です。

6月27日、メルパルク広島にて開催された「花活シンポジウム」には定員を大きく超える参加があり、関心の高さが何われました。そして9月、当イノベーション事業の次の事業「園芸福祉講習会」が始まりました。この講習会は、花きの効用を体験することを目的に、広島県内の介護施設や小学校など全20箇所で開催されます。

イレカエールを使用したフラワーアレンジや、苗のアレンジで脳を活性化し、園芸福祉の啓発と花のまちづくり、心身の健康増進を目指しているのだそう。

フルーブル編集部では、9月30日に実施された「デイサービス 向日葵（広島市中区）」での講習会に伺ってきました。

およそ30人ほどの参加者が集まる中、NPO法人日本園芸福祉普及協会理事の高松雅子さんを中心に、園芸福祉士のみなさんによる講習がスタート。この講習で用いられるフラワーアレンジメント法は、○・△・□のマークが付けられた吸水性スポンジへそれぞれ花を挿していくという簡単なもの。誰もが簡単に美しく仕上げることができ、しかも作り上げた達成感や満足感が高いといえます。

「イレカエール」という寄せ植えを簡単に楽しめるグッズを使用した今回の講習会。デイサービス施設ということで、60代から80代の高齢者の方を対象として実施されました。参加された方はみなさん、フラワーアレン

ジメントは初めての体験でしたが、分かりやすい仕組みと植物との触れ合いに、本当に生き生きとして楽しそう！1時間程かけて出来上がった作品を笑顔で満足そうに眺めている姿がとても印象的でした。

植物と触れ合うことで、心も体も元気になる。みんなで一緒にやることで、仲間づくりができる。園芸福祉活動のコンセプトは、「園芸を通じて仲間をつくり、ものづくりを楽しむ」こと。まさに広島花きイノベーション事業は、園芸福祉活動そのものだと感じました。

これから2015年3月までの間、各地にて行われるこの講習会。ひとりでも多くの方が体験でき、そしてこの活動がもっと広がるよう、フルーブルも応援しています！

花活講習会及び園芸福祉に関するお問い合わせは

ひろしまね園芸福祉協会 事務局

〒737-0935 広島県呉市焼山中央6丁目14番8号

TEL・FAX:0823-33-7173

E-mail: hiroshimaneefk@yahoo.co.jp

URL: <http://heartland.geocities.jp/hiroshimaneefk/>

●花活講習会の開催場所が広島県外の場合は、下記までお問合せください。

NPO法人 日本園芸福祉普及協会 事務局

〒162-0063 東京都新宿区市谷薬王寺町58-204

TEL.03-3266-0666 FAX.03-3266-0667

E-mail: [kyoukai@engeifukusi.com](mailto:kyoukai@engeifukusi.com) URL: <http://www.engeifukusi.com>

# 平成26年度 花活講習会

広島市立大芝小学校	広島市西区	25名
舟入ディサービス ひまわり	広島市中区	30名
特別養護老人ホーム 温養院	呉市焼山中央	23名
医療法人 せいざん 介護老人保健施設あおやま	呉市阿賀北	15名
グランホームあさひ	広島市佐伯区	12名
社会福祉法人たまご会	呉市郷原町	30名
野呂山学園	呉市郷原町	30名
ディサービスセンター成寿園	呉市広町	30名
ディサービス ふれあい段原	広島市南区	30名
ひうな荘	広島市南区	30名
社会福祉法人 光清学園	広島市南区	30名
社会福祉法人 亀甲園	三原市	35名
医療法人 微風会 高齢者複合施設普賢ビルサービス付 高齢者向け住宅 迦葉	三次市	27名
介護付有料老人ホーム メリィハウス八千代	安芸高田市	30名
ナーガ保育園	広島市南区	70名
有料老人ホーム ヴィラみずほ	廿日市市	36名
ディサービスセンター 黒瀬コスモス園	東広島市	47名
特定非営利活動法人 オレンジハウス	広島市安佐北区	30名
特定非営利活動法人 もちもちの木	広島市中区	30名